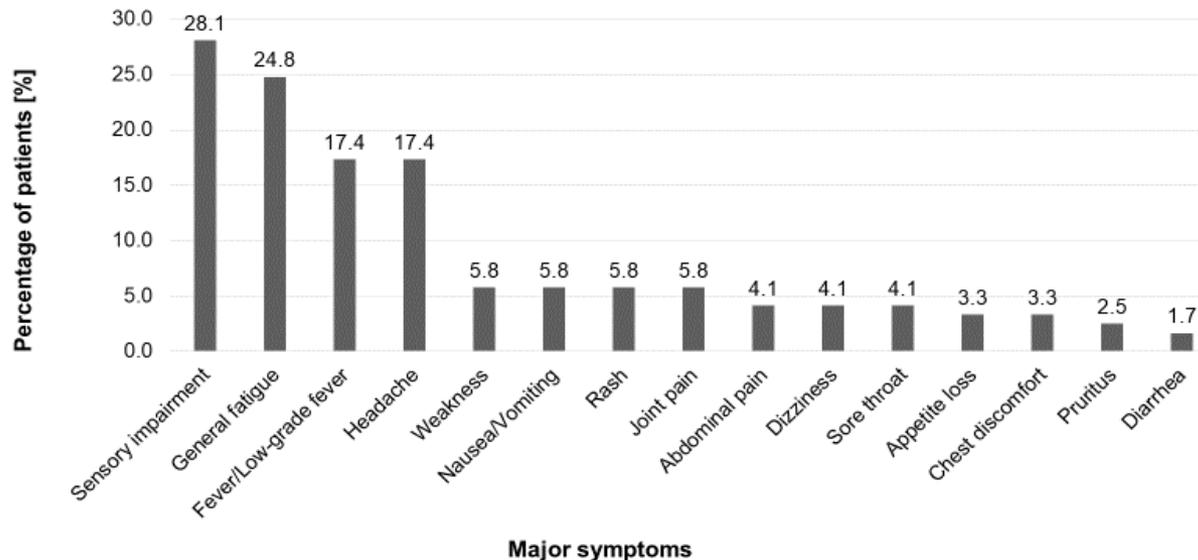


SARS-CoV-2ワクチン接種後に発現した 持続的な副反応症状の特徴

SARS-CoV-2ワクチン接種後の副反応は数多く報告されていますが、その持続的な症状に関する研究はほとんどありません。我々、岡山大学病院 総合内科・総合診療科は岡山県 保健福祉部 保健福祉課 ワクチン対策室より委託を受け、ワクチン副反応に対応する外来を2021年4月に岡山大学病院に設置しました。今回の研究の結果、最も頻度の高かった症状は、**感覚障害 (34人、28.1%)**、**全身倦怠感 (30人、24.8%)**、**発熱/微熱 (21人、17.4%)**、**頭痛 (21人、17.4%)** でした。また、6例の重症患者が含まれ、筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群、サルコイドーシス、無菌性髄膜炎、神経脊髄炎/視神経脊髄炎、付着部炎、特発性血小板減少症でした。



このように症状は多彩であり、全身症状を包括的にみる診療が必要だとわかりました。
なお、本研究はワクチンと症状の因果関係を証明したものではありません。

